

# 第4回 理事会 議事要録

2026.0207 宮本公民館

## 1. 開会挨拶・会長報告

石川会長より、いきいき同窓会の42年にわたる歴史と、6年前に実施された組織改革(会費の一本化による財政基盤の安定化等)についての振り返りがありました。現在直面している会員減少という課題に対し、既存の枠組みにとられない新たな組織改革の必要性が強く提起されました。

- 会員資格の拡大検討: 具体的には、同窓会の対象を従来の「いきいき学部」卒業生のみならず「まちづくり学部」の卒業生にも広げる可能性について言及がありました。
- 行政との調整: 現状、同窓会は「高齢者福祉課」が所管していますが、市民大学校は「社会教育課」が担当しているという縦割りの状況があります。これに伴う補助金交付要綱の定義(現在は「いきいき学部の修了生」と定義)の見直しや、部局を跨いだ調整について、すでに市側の課長級と協議を開始している旨が報告されました。
- 今後の見通し: これらの改革は今期(残り数ヶ月)での結論は難しいものの、組織の持続可能性を高めるための重要な将来的方向性として示されました。

## 2. 各部連絡・報告事項

### 総務部(第36回 作品展運営計画)

10月の理事会で行われたグループディスカッションで出された多角的なアイデアを集約し、3月開催の第36回作品展に向けた案が報告されました。「開かれた・つながる・進化する」をコンセプトの核とし、以下の重点施策を検討します。

- 学習の広がり(デジタルフロンティア): 従来の展示に加え、パソコン作品や話題のAIを活用した作品展(画像生成や作曲など)を導入し、新しい学習成果の形を提示します。
- コミュニティオープン展示: 出展のハードルを下げ、同窓会単位だけでなく、地域で活動するグループや個人参加の枠を広げます。これにより、退会した元会員や卒業生のネットワークの再構築を目指します。
- 鑑賞環境の最適化(ゾーニング): 「静かに鑑賞したい」「仲間と語り合いたい」という双方のニーズに応えるため、交流スペース(サロン機能)と展示エリアのゾーニングを明確に行います。
- 広報強化: 単発のイベントに終わらせないように、SNSの活用や他学部とのコラボレーションによる多角的な集客プロモーションを展開します。

### 健康スポーツ部

来年度の競技大会日程の提示がされました。参加者の高齢化や減少への対策として、誰でも楽しみやすいニュースポーツ(モルックやボッチャ)の用具を購入し、普及を図っています。また、深刻な課題として「開催者の後継者不足」が挙げられました。部長自身が長年務めている現状を含め、各競技の運営リーダーが見つからないために事業継続が危ぶまれるケースが出てきています。これは一部だけの問題ではなく、同窓会全体で取り組むべき構造的な課題であるとの懸念が共有されました。

### 広報部

広報誌114号が発行されました。今回は外部委託せず、部員による「手作り」で制作された点が大き

な特徴です。これにより大幅なコスト削減が実現できただけでなく、制作過程を通じたチームビルディングの効果も報告されました。また、ホームページ上のデータベース機能のデモンストレーションが行われ、スマホやPCから過去の会報(バックナンバー)が手軽に閲覧可能になったことが共有されました。依頼事項: 理事(クラス代表)は、会員への確実な配布を徹底してほしいとの要望がありました。

## 文化部

今期作品展は3月11日(火)から15日(土)(搬入は10日)。(来期)3月開催の作品展・文化講演会について、会場確保やスケジュール調整に苦慮している現状が報告されました。

## 3. 議案審議・報告

### (1) 2025年度 事業報告(案)

今年度の活動実績について報告がなされました。特筆すべきポイントは以下の通りです。

- 会場確保の工夫: 公民館改修の影響を受け、在校生説明会を初めて「きららホール(フェイスビル)」で開催するなど、柔軟な対応が行われました。
- 対外連携の強化: 健康麻雀大会や作品展において、社会教育課長や高齢者福祉課長を招聘するなど、市関係者との連携を深め、同窓会のプレゼンス向上に努めました。
- コスト削減と効率化: 広報誌の手作り化による経費削減の実現や、同好会ガイドブックの編集会議実施など、運営の効率化が進みました。
- デジタル化の推進: ホームページ制作チームとデジタル担当者会議が連携し、会員への情報発信力が強化されました。

### (2) 2025年度 決算見込み(案)

収入の部: 当初予算に対し、会員数が予想を上回って推移しており、さらに作品展への一般参加などによる賛助会員の収入も見込まれるため、微増となる見通しです。

支出の部: 広報誌の内製化が功を奏し、印刷・製本費等で約17万円の削減効果が出ました。この浮いた予算を有効活用し、モルック等のスポーツ用具購入や老朽化した備品の更新に充当しました。全体として黒字決算となり、次期への繰越金が確保できる見込みであると報告されました。

### (3) 2026年度 活動計画(試案)

来年度の計画について、各部での検討状況を踏まえた「試案」が提示されました。

- 総会の新機軸(4月10日): 総会終了後の時間を有効活用し、単なる解散ではなく、アトラクション(文化講演会)として平澤諭氏によるピアノ演奏と合唱の時間を設けます。これにより、総会への参加満足度を高める新しい試みを行います。
- プロジェクトチームの発足: 縦割り組織の弊害をなくすため、バス旅行の企画やデジタル化推進など、部を横断したプロジェクトチームを発足させ、活性化を図ります。
- 文化講演会のあり方: 来年度以降、総会後のイベントを正式に「文化講演会」として位置づけるか、またその内容決定プロセスをどうするかについて、来月の理事会でグループディスカッションを行い、合意形成を図る予定です。

#### (4) 2026年度 収支予算(案)

会員数の減少傾向(610名想定)を見据え、慎重な予算編成を行っています。

- 広報費: 引き続き手作り制作を前提とし、外注費を抑えたコストカット予算(約29万円)を維持します。
- 新規事業準備金: 新たに13万円を計上しました。これは、デジタル化への対応や、新しいイベント・企画が立ち上がった際に柔軟に対応できるための戦略的な予算枠です。

#### (5) 次期会長候補者の選出

会長推薦委員会より、次期リーダー選出の経緯について報告がありました。会則に基づき、公平性を期すために公募および推薦を受け付け、委員会での厳正な審議と投票を行いました。その結果、長澤純子氏を次期会長候補として決定しました。4月の定期総会で正式に承認を求める予定です。長澤氏からは、「会員が『入ってよかった』』と思える魅力ある同窓会にしたい」との抱負が語られ、開かれた同窓会への改革推進が期待されます。

#### (6) 地域福祉バス利用・見学会報告

1月16日に実施された「首都圏外郭放水路(地下神殿)見学ツアー」について、参加者アンケートで高い満足度が得られたことが報告されました。併せて、市の「地域福祉バス借り上げ補助制度」の利用促進を図るためのマニュアルが配布されました。

- 制度のメリット: 手続きが簡素化されており、日程・方面・人数を伝えるだけでバス会社から容易に見積もりが取れる点や、補助金活用による自己負担の軽減などが説明されました。
- 今後の展開: 次回はJAXA見学なども計画されており、クラス単位や同好会単位での積極的な利用が呼びかけられました。

### 4. 今後の予定・連絡事項

- 第36回 作品展: 3月11日(火)～15日(土)
  - 一般来場者へのPRも強化し、地域に開かれたイベントを目指します。
- 文化講演会(コンサート): 3月11日(火)
  - 講師: 櫻井先生(塚田のcockさん合唱団指導者)。今回は事前予約不要で実施し、合唱団の参加も予定されています。
- 第5回 理事会: 3月21日(金)13:00～ 薬円台公民館 講堂
  - 文化講演会の今後のあり方や決め方について、グループディスカッション形式で深掘りする予定です。
- 第43回 定期総会: 4月10日(木) 薬園台公民館